

## 第5節

## 家にあるもの

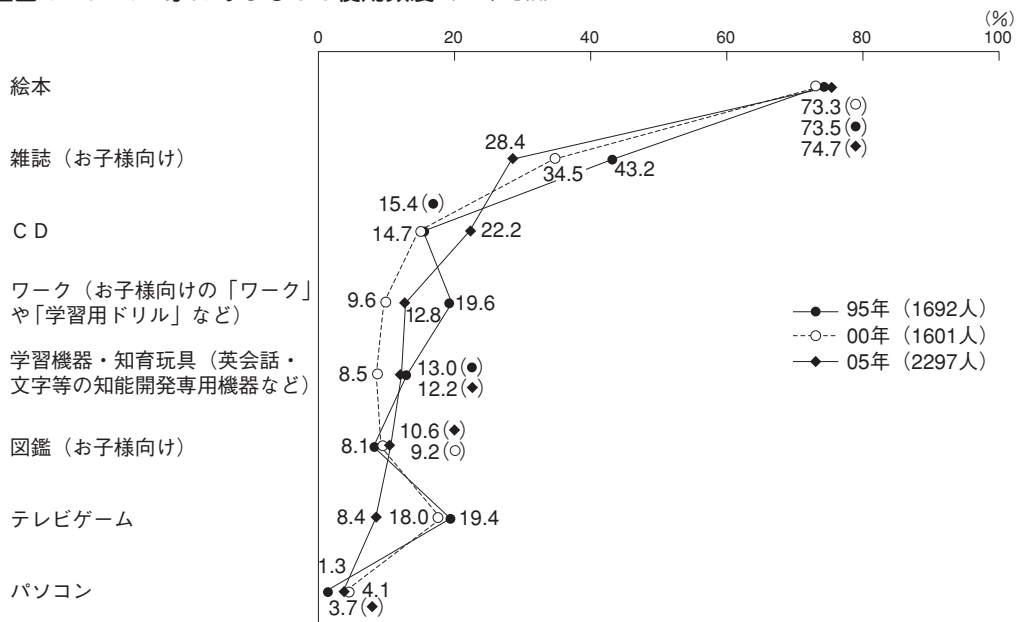
家にあるものをみると、「CD」を使う頻度が増える一方で「テレビゲーム」は頻度が大きく減少している。また、「パソコン」が幼児の家庭に浸透してきており、「ごくたまに」使う比率も含めると36.9%に達する。「絵本」などの古くからある玩具が使われ続ける一方で、「CD」や「パソコン」などの比較的新しい機器も幼児の生活に浸透しつつある。

この節では、幼児のいる家にあるものと、その使用頻度をみてみよう。まず経年でのおおまかな変化をとらえるために、「ほとんど毎日」＋「週に3～4日」使うと答えた比率をみる（図1-5-1）。「雑誌（お子様向け）」は、95年43.2%、00年34.5%、05年28.4%と使う頻度が少なくなっているものの1つだ。また「テレビゲーム」は今回大幅に使用頻度が減少しており、00年18.0%から05年8.4%と

10ポイント近く下がった。反対に「CD」は使用頻度がこの5年間で増えており、00年14.7%から05年22.2%と7.5ポイント上がっている。

これら使用頻度に10年間で変化があったものについて、さらに詳細にみたのが次の図1-5-2～5である。「雑誌（お子様向け）」は、もともと「家がない」という比率も若干増えているが、家にあっても「ごくたまに」

■図1-5-1 家にあるものの使用頻度（10年比較）

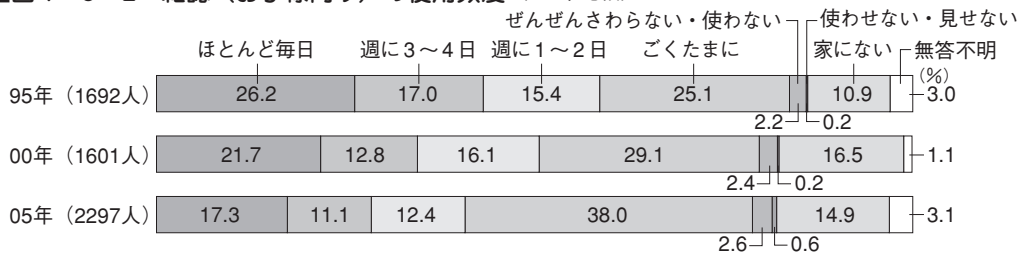


注) 「ほとんど毎日」＋「週に3～4日」の%。

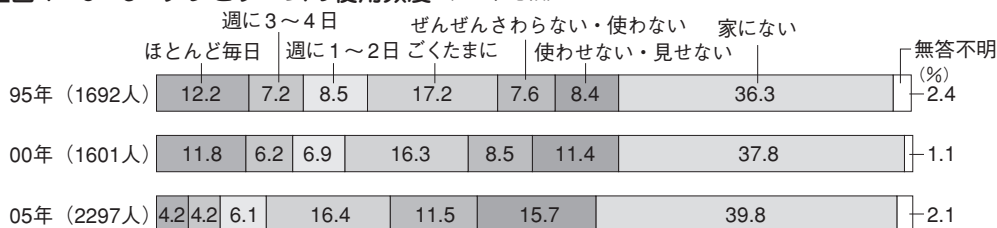
しか使わなくなっている傾向にあるようだ。「テレビゲーム」もおよそ6割の家にはあるものの、「使わせない」の比率が増えており、親が意図的に使用させないようにしているようである。「CD」は、家庭への普及も進んでいるうえに、「使わせない」比率が00年14.4%から05年2.7%へと低下している。近年

CDプレイヤーの低価格化やCD教材の普及が幼児にとってより手軽で身近なものになっている現れだといえる。さらに「パソコン」をみてみよう。「家がない」の比率をみれば、この10年間に幼児のいる家庭にもパソコンが急速に普及してきていることがわかる。その結果、「週に1～2日」「ごくたまに」も含め

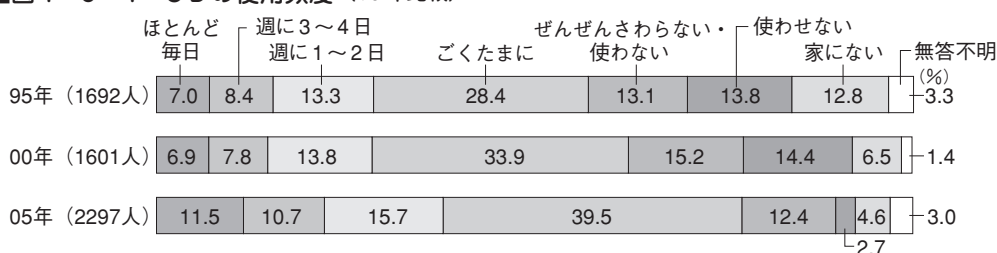
■図1-5-2 雑誌（お子様向け）の使用頻度（10年比較）



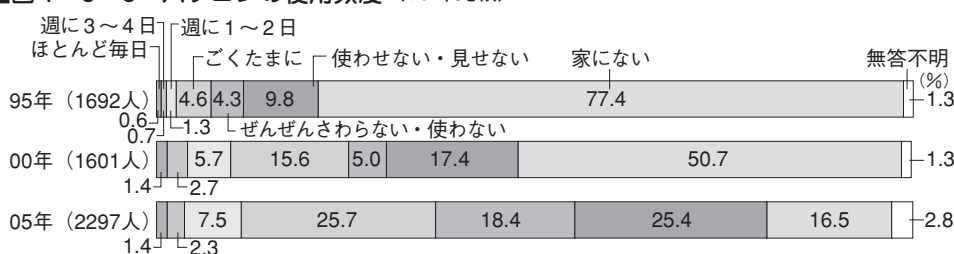
■図1-5-3 テレビゲームの使用頻度（10年比較）



■図1-5-4 CDの使用頻度（10年比較）



■図1-5-5 パソコンの使用頻度（10年比較）

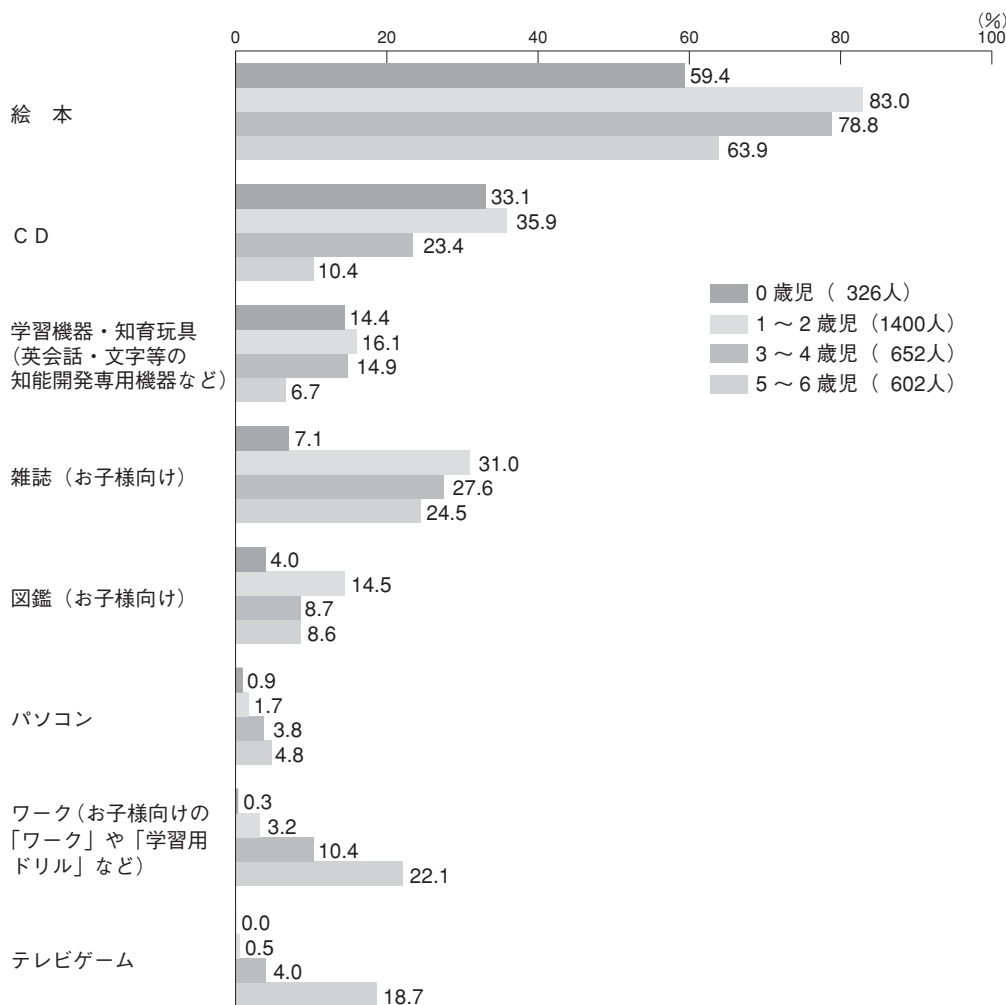


れば95年7.2%、00年25.4%、05年36.9%と幼児がパソコンに触れる機会は着実に増えてきている。幼児向けの学習ソフトなどの普及がめざましい今、幼児の「パソコン」接触の動きには今後注目していきたい。

それぞれのものについて、年齢別の使用頻度をみてみよう(図1-5-6)。「絵本」「CD」「学習機器・知育玩具(英会話・文字等の知能開発専用機器など)」「雑誌(お子様向け)

「図鑑(お子様向け)」は1~2歳児で使う頻度が一番高く、その後低下する。3~4歳児では幼稚園に就園し、家で過ごす時間が少なくなるためか、それぞれ使う頻度が少なくなる。一方、「パソコン」「ワーク(お子様向けの『ワーク』や『学習用ドリル』など)」「テレビゲーム」は低年齢では使用するのが難しいため、年齢が上になるにつれて使う頻度が増加している。

■図1-5-6 家にあるものの使用頻度(子どもの年齢別 05年)



注1) 「ほとんど毎日」+「週に3~4日」の%。

注2) 0歳6か月~1歳5か月の乳幼児をもつ保護者の回答を含む。